

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. 134

エントリー学校名：静岡県立榛原高等学校

活動名：発達障害への理解について
 ～二次障害の防止を目的として～

目標・方針：発達障害を抱えている生徒に対して、合理的配慮を実現する。

- 1 発達障害に対する基本的理解を深める。
- 2 障害等が原因となり、校内で「生きづらさ」を感じている生徒への理解を深める。
- 3 生徒が抱えている問題を明らかにする方法（ケース会議の手法など）を理解する。
- 4 生徒への適切な指導方法について研究し、教職員全体が共有する。
- 5 発達障害等が疑われる生徒に対する合理的配慮を実現する。

活動内容：発達障害の専門家をアドバイザーと迎え、校内研修（年 4 回）を実施する。

- 1 発達障害についての概要確認（5月 遠隔講義）
- 2 模擬ケース会議の実施（8月 グループワーク）
- 3 適切な指導方法について（10月 講義）
- 4 活動のまとめ（2月実施予定 総括）

研修会の前後にアドバイザーと協議を行い、研修計画の立案、修正及び、目標設定等の修正を行う。

活動の成果：第 1 回～第 3 回までの研修成果（職員アンケートより抜粋）

【第 1 回 遠隔講義（Zoom の活用）】 研修内容への否定的評価（0.03% n=29）

- ・発達障害を抱える生徒の感覚を理解することができた。
- ・学校の通信回線が脆弱なため、講義が中断したことを踏まえ、「機器トラブルによるイライラが発達障害を抱える生徒の日常」であることが理解できた。事例検討会を行い今後活かしたい。

【第 2 回 模擬ケース会議（対面）】 研修内容への否定的評価（0.03% n=30）

- ・多様な生徒が増えており、教員も知識を持ち、ここに対応する能力が必要だと思う。
- ・今、何をしようと考えてしまいがちですが、生徒の抱える問題に寄り添い、ビジョンを先に考えていくことが大切。
- ・学校全体で共有できる事例ではない。一部の先生だけの研修となっていないか。

【第 3 回 講義（対面）】 研修内容への否定的評価（0.00% n=29）

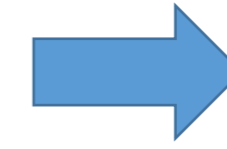
- ・発達障害について、理解を深めた上で生徒との関わり方や対応について、具体的な方法を学ぶことができた。
- ・回数を重ねて、より具体的な対策が見えてきた。自分達が多くの対処法を理解、行動につなげることが大切。
- ・自分の対応について考えました。言葉による表現が苦手な生徒にどう声をかけたらよいか悩みます。

アピールポイント（アイデアや工夫）：職員全体が年間を通じて、課題に向き合って考える研修の実践

- 1 アドバイザー（常葉大学 赤塚めぐみ氏）により、研修全体がコーディネートされている。
- 2 医学的見地よりも教育学的な立場から校内研修を計画している。
- 3 職員一人ひとりが自分ごととして考えるような仕掛けがなされている。
- 4 遠隔講義、対面講義、グループワーク等が効果的に組み合わせられている。
- 5 年間計画に基づいて計画的に校内研修を実施している。

【校内研修の背景とねらい】

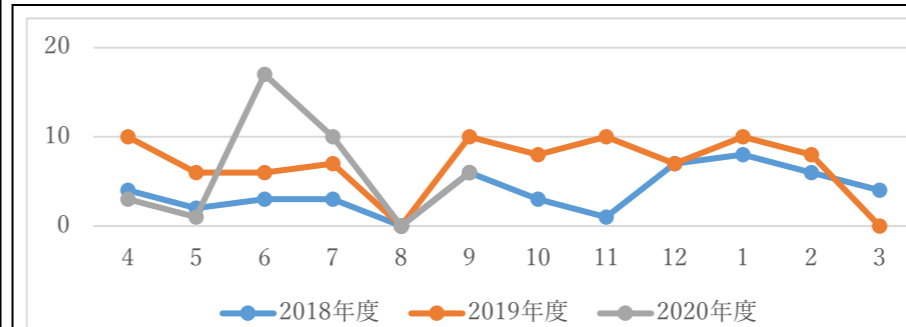
- 1 生徒相談件数の増加
- 2 発達障害の可能性のある生徒の増加
- 3 教職員の理解と対応の必要性



【校内研修のねらい】

- 当事者となる生徒自身も障害を正しく認識できていない可能性がある。
→見極める力
- 対話的理解（アクティブ・ラーニングの手法を活用）。
→生徒理解
- 生徒の不安を排除し、「生きにくさ」を解決する。
→安心安全な学校づくり

【本校の現状分析】



近年の学校支援心理アドバイザー相談件数（全日課程のみ）

【本校の現状】

近年、相談件数が増加している。背景には、アドバイザーの信頼がある一方で、発達障害が疑われる生徒の数自体が増加している。また、レジリエンス力の低下が指摘されている。



【年間研修計画の検討・立案（遠隔会議）】



校内研修の実施にあたって

- P：年間計画作成（講師・校長・相談室他）
- D：研修会の実施
- C：アンケート（毎回実施）
- A：アンケート結果に基づいた計画の修正

【実際の校内研修のようす】



第 1 回 校内研修会（遠隔会議で実施）

- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響でリモート実施。
- ・機材の不具合の発生など遠隔講義の問題点も浮き彫りとなる。



第 2 回 校内研修会（模擬ケース会議）

- ・本校に所属する生徒の事例をもとにケース会議（1事例）を実施。
- ・参加した職員は、ケース会議を参観しその手法を理解した。



第 3 回 校内研修（講義）

- ・学習障害や発達障害が疑われる生徒への具体的な対処法を学ぶ。
- ・良きアドバイザーとしてのあり方を考える。